

産技連 九州・沖縄地域部会

令和3年度活動報告及び令和4年度活動方針

1. 令和3年度活動方針

【基本方針】

九州・沖縄地域の産学官から真に頼りにされ、必要とされる産技連組織を構築する。具体的には、地域の中堅・中小企業の技術力の向上を支援し、地域経済を活性化することを目的として、公設試・産総研九州センターの研究者・技術者の基礎的・基盤的な能力を高めていく。また、県の枠を越えて形成した人的広域ネットワークを活用し、地域産業の振興に貢献する。

(1) 7つの分科会と3つの研究会を支援し、一層の活性化を図る。

＜分科会＞ ①窯業・ナノテク・材料技術分科会、②資源・環境・エネルギー分科会、
③情報・電子分科会、④ライフサイエンス分科会、⑤機械金属分科会、
⑥デザイン分科会、⑦IoT 分科会

＜研究会＞ ①天草陶石の未利用資源に関する活用研究会、②無焼成プロセス研究会、
③AI/IoT 実装研究会

(2) 九州・沖縄地域における広域的な人的ネットワークの強化・連携を促進するとともに、中堅・中小企業の課題解決への支援を各機関が協力して実行する。

【重点活動】

(1) 広域連携推進検討 W/G の運営

九州・沖縄各県公設試の企画担当者、九州・沖縄地域産技連担当者、産技連九州・沖縄地域部会担当者及びオブザーバー（九州地方知事会等）をメンバーとする本 W/G において、産技連九州・沖縄地域部会並びに九州・沖縄地域産技連の様々な事業の連携を図り、それらに関する議論を活発に行うことにより、公設試並びに産総研九州センターの広域連携の基本的戦略を構築し、情報交換、人的ネットワークの構築、共同研究の立ち上げ等を推進する。また、引き続き九州地方知事会等との連携の維持・強化を図る。

(2) 地域部会総会の開催と分科会・研究会活動の推進

地域部会総会を開催する。また、各分科会は年1回程度、研究会は年2回程度開催し、地域産業の課題解決に資する関連研究開発プロジェクト提案に向けた活動等を行うとともに、共通課題を掘り起こし、明確にして、その課題を解決すべく広域連携で取り組む。

(3) 九州・沖縄 産業技術オープンイノベーションデーの開催

地域企業等へ産総研・公設試等の最新情報並びに産学官の情報交換・交流の場を提供する「九州・沖縄 産業技術オープンイノベーションデー」を継続開催する。企業&公設

試・産総研合同成果発表会の同時開催や、講演会、技術シーズ紹介、支援機関等の活動紹介等を効果的に行うことにより、各機関の利活用促進と相互連携を加速し、地域イノベーションの創出に寄与する。

(4)九州・沖縄地域公設試及び産総研九州センター研究者合同研修会の開催

公設試及び産総研九州センター研究者合同研修会を開催し、研究者・技術者としての知見、スキルの向上に努めるとともに、研究者相互の広域的な人的ネットワークの構築を図る。

2. 現在までの活動状況

【重点活動に対応する活動状況】

(1)広域連携推進検討 W/G の運営

九州・沖縄地域産技連と産技連九州・沖縄地域部会が連携して、第1回 W/G を令和3年6月9日、第2回 W/G を同9月7日に、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮してオンライン形式で開催。

第1回 W/G は、九州・沖縄地域産技連企画調整会議と合同で開催し、「九州・沖縄地域部会総会・分科会」、「九州・沖縄 産業技術オープンイノベーションデー」、「九州・沖縄地域公設試及び産総研九州センター研究者合同研修会」等、各々の事業の実施方針や具体的なスケジュール等について協議。

第2回 W/G は、地域産技連や地域部会の活動をはじめ、研究者合同研修会の開催報告、産業技術オープンイノベーションデーの開催に向けた準備状況等について意見交換を実施。

(2)地域部会総会の開催と分科会・研究会活動の推進

九州・沖縄地域部会総会については、広域連携推進検討 W/G において開催方法等を検討し、令和4年2月1日に九州・沖縄地域産業技術連携推進会議と合同開催。

分科会については、ライフサイエンス分科会が10月8日にメール(書面)開催。資源・環境・エネルギー分科会は10月11日にメール(書面)開催。デザイン分科会は10月21日にオンライン開催。情報・電子分科会とIoT分科会は合同で11月2日にメール(書面)開催。窯業・ナノテク・材料技術分科会は11月24日にオンライン開催。機械金属分科会は12月2日にオンライン開催。

また、地域企業のポテンシャルアップのため、昨年度、IoT 分科会の中に設置した AI/IoT 実装研究会については12月24日、2月16日、3月24日(予定)に開催し、地域企業への AI/IoT 導入を継続的に支援できる公設試研究者(指導人材)の育成を図る。

(3) 令和 3 年度 九州・沖縄 産業技術オープンイノベーションデーの開催

産総研九州センターと九州経済産業局とが、九州・沖縄各県公設試、九州地方知事会、九州イノベーション創出戦略会議等の各機関と一体となって、企業経営者、技術者・研究者、中小企業支援機関のコーディネータ等への産総研・公設試の研究成果等の最新情報の提供と、関係者間の情報交換を密に行い、相互の連携を活性化させオープンイノベーションを促進する場として、平成 23 年度より実施。

第 11 回目となる令和 3 年度は、地域産業界が抱える課題を意識しつつ、令和 3 年 10 月 7 日にオンライン形式にて開催。産総研九州センターの取り組みを紹介するとともに、特別講演として、デジタル経営に取り組む地域企業より先進事例を紹介。企業 & 公設試・産総研 合同成果発表会では、公設試サテライト会場等から共同研究成果についてプレゼン。オンライン上での質問の機会を設けるなど双方向性を高め、情報交流の活性化に努めた。

また、技術シーズ・支援機関等の活動紹介ポスターについては、産総研九州センターのホームページ上でナレーションを付加して紹介する等、参加者が理解しやすいように情報発信。

更に、研究者の成果発表の奨励や、分かりやすく伝える能力を高めること等と目的として、技術シーズ紹介や合同成果発表会において審査を行い、優秀な案件については 2 月 1 日の九州・沖縄地域産技連において表彰。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮してオンライン形式での開催となったが、参加申込者数が 431 名と例年を大きく上回るとともに、九州域外をはじめ遠方からの参加が増加する等の成果も見られた。

(4) 令和 3 年度(第 17 回)九州・沖縄地域公設試及び産総研九州センター研究者合同研修会の開催

大分県産業科学技術センター等に協力頂き、令和 3 年 7 月 15 日、大分市において、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に講じた上で、リアル形式で開催。九州・沖縄の公設試及び産総研九州センターからの研修生(13 名)をはじめ、講師やスタッフ等を含めて計 31 名が参加。

研修会では、経済産業省 地域経済産業政策課 島田総括係長による「地域経済産業政策の方向性と昨今の取組」と題した講義をはじめ、研究者ショートプレゼン及び意見交換、大分県産業科学技術センター及び(株)テクノコンサルタント 西日本ロボット・ドローンセンターの見学を実施。

経産省島田係長の講義は、国の地域経済産業政策の検討状況をはじめ、各種支援施策等を把握する貴重な機会となった。

また、研究者ショートプレゼン及び意見交換では、コロナ禍での企業支援の取り組みや、他県の公設試や産総研との連携等について、各研修生より説明頂いた後に、モデ

レータも加わり、企業支援の課題や成功事例等について議論を深めた。

大分県産業科学技術センターの見学では、センターの概要紹介の後、同センターのユニークな研究施設(ドローンアナライザー、磁気シールドルーム、食品オープンラボ等)を見学。

(株)テクノコンサルタント 西日本ロボット・ドローンセンターの見学では、センターの概要紹介の後、サポイン事業などで技術開発に取り組んでいる非破壊調査システムや、高感度カメラを搭載したドローンの実験室等を見学。

参加者からは「本研修を通して得られた人的ネットワークを活かし、今後の業務に役立てたい。」「各県の興味深い技術への理解が深まった。今後、連携の機会を探ってきたい。」等の声が聞かれている。

3. 今後の予定、課題等

【今後の予定】

令和4年3月1日に、第3回広域連携推進検討W/Gを開催し、令和3年度事業のレビュー、令和4年度同事業の方針・内容等について協議することとしている。

4. 令和4年度活動方針案

【基本方針】

九州・沖縄地域の産学官から真に頼りにされ、必要とされる産技連組織を構築する。具体的には、地域の中堅・中小企業の技術力の向上を支援し、地域経済を活性化することを目的として、公設試・産総研九州センターの研究者・技術者の基礎的・基盤的な能力を高めていく。また、県の枠を越えて形成した人的広域ネットワークを活用し、地域産業の振興に貢献する。

令和4年度は、ウィズ・コロナ/アフター・コロナへの対応をはじめとする、地域産業界が抱える課題の解決をこれまで以上に意識して活動するとともに、九州・沖縄各県公設試等との意見交換を十分に行った上で、産技連九州・沖縄地域部会の各事業の拡充・強化を図り、各機関が一体となってより効果的な事業の実施に努める。

(1) 7つの分科会と3つの研究会を支援し、一層の活性化を図る。

＜分科会＞ ①窯業・ナノテク・材料技術分科会、②資源・環境・エネルギー分科会、
③情報・電子分科会、④ライフサイエンス分科会、⑤機械金属分科会、
⑥デザイン分科会、⑦IoT 分科会

＜研究会＞ ①天草陶石の未利用資源に関する活用研究会、②無焼成プロセス研究会、
③AI/IoT 実装研究会

また、地域産業の振興や課題解決に貢献する新たな分科会、研究会の設置を奨励する。

(2) 九州・沖縄地域における広域的な人的ネットワークの強化・連携を促進するとともに、地

域中堅・中小企業の課題解決への支援を各機関が協力して実行する。

【重点活動】

(1) 広域連携推進検討 W/G の運営

九州・沖縄各県公設試の企画担当者、九州・沖縄地域産技連担当者、産技連九州・沖縄地域部会担当者及びオブザーバー(九州地方知事会等)をメンバーとする本 W/G において、産技連九州・沖縄地域部会並びに九州・沖縄地域産技連の様々な事業の連携を図り、それらに関する議論を活発に行うことにより、公設試並びに産総研九州センターの広域連携の基本的戦略を構築し、情報交換、人的ネットワークの構築、共同研究の立ち上げ等を推進する。また、引き続き九州地方知事会との連携の維持・強化を図る。

(2) 地域部会総会の開催と分科会・研究会活動の推進

地域部会総会を開催する。また、各分科会は年1回程度、研究会は年2回程度開催し、地域産業の課題解決に資する関連研究開発プロジェクト提案に向けた活動等を行うとともに、共通課題を掘り起こし、明確にして、その課題を解決すべく広域連携で取り組む。

(3) 九州・沖縄 産業技術オープンイノベーションデーの開催

地域企業等へ産総研・公設試等の最新情報提供、並びに産学官の情報交換・交流の場を提供する「九州・沖縄 産業技術オープンイノベーションデー」を継続開催する。同時開催する企業&公設試・産総研合同成果発表会や、講演会、技術シーズ紹介、支援機関等の活動紹介等は、オンライン開催の場合でも双方向性を高めるなど、より効果的に行うことにより、各機関の利活用促進と相互連携を加速し、地域イノベーションの創出に寄与する。

(4) 九州・沖縄地域公設試及び産総研九州センター研究者合同研修会の開催

公設試及び産総研九州センター研究者合同研修会を開催し、研究者・技術者としての知見、スキルの向上に努めるとともに、研究者相互の広域的な人的ネットワークの構築を図る。

令和3年度の部会・地域産技連内のトピックスを50～80字程度でご記入ください。

※部会・地域産技連の活動をまとめたパワーポイントスライドの作成に利用します。

「九州・沖縄産業技術オープンイノベーションデー」では、ホームページでの技術シーズ等のポスター紹介の際にナレーションを付ける等、理解しやすい情報発信に努めた。